

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス伊達事業所		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月16 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数) 22人
○従業員評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年1 月 30日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日々の活動プログラムを、職員全員で打ち合わせをし、固定化されない様に、マンネリ化しない様に行っている事。	・前日の振り返りから始め、本日利用するメンバーについて、5領域およびいぶきの療育の中でどのようにしていくのか話し合い、職員各自が意見を出し合いそれを自発音がまとめその日の活動プログラムを立案している。職員一人一人が意見を出すことにより、多面的に見る事が出来、適切に支援に繋がっている。	・施設内研修を積むことで職員間の利用児童の特性、療育について知識が増え、専門的に療育を考える力が更に身に付き、活動計画の立案などでさらなるスキルアップできる様にしていきたい。
2	・日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができる様に務めている。	・自宅への送迎の際いぶき伊達の中であったことや子どもの状況や様子をみて伝え、家庭での様子や困り感や要望等を短い時間だが伝え共有できる様に日々努めている。又直接会えない方については連絡帳を用い意思の疎通を図っている。	・送迎短い時間の中で、伝え合いが出来る様に、話の内容を吟味し、短時間で必要な事を的確に伝えられる様に聞ける様にしていける必要があり、自発音や担当者で話し合い、的確に行える様にしていく。
3	・活動プログラムをチームで行ない、前日の振り返りから始め、昨日保護者から報告を受けたこと、最近の療育の傾向など、様々な情報を提示しながら、その日参加する職員全員で意見を出し合い、それをまとめプログラムを立案している	・職員一人一人が昨日の振り返り、最近の傾向、申し送りなど伝えいろいろ協議しながら、予定表を記入し更に確認しながらその日の活動のプログラムを決めている。いろいろな視点考え方も踏まえる事で充実している様に思われる。	・活動プログラムをチームで組んでいくのにあたって、障がいについて療育についての知識を更にスキルアップしていく必要がある様に思われるので、施設内研修を充実していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。この件については、地域の子ども食堂への参加、屋内遊び場へ出向くなどしたが、交流という点で考えると、十分ではない様に思われる。	・送迎の際に情報の共有を図ったきたが、更に一歩踏み込んだ、交流までは至っていないのが現状である。	・今まで行ってきた情報の共有から一歩踏み出し、交流に向けた検討をしていく必要がある。
2	・保護者同士の交流をする機会を設けるなどの支援をしているのか。この件については、新型コロナウイルスが流行する前は、保護者参加のイベントを年に1回行っていたが、2024年度からは保護者向け研修会を開き始めたが、交流する機会と考えると十分ではない様に思われる。	・新型コロナウイルスが2類から5類へ移行後、保護者向け研修会開催までは進んだが、その先は進まず、検討事項として挙げた。	・次年度の検討事項として子ども達のイベントの中に保護者も参加する企画を現在考慮中で、意見をまとめ次年度実施を目指していく。
3	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。以前は近隣の祭礼やイベントに参加していたが、この項目については新型コロナウイルス流行以降、躊躇していた内容のように思われる。近隣の子ども食堂へ参加する事のみとなっていたので、検討する必要がある。	・感染症対策として考慮してきた事で、実施できないまま過ぎたしまったように思われる。新型コロナウイルスが5類になり子ども食堂には出かける様になったが、今ひとつ進展せず現在に至っている。	・次年度の検討事項として、近隣の祭礼やイベントへの参加を考慮している。情報収集や参加の仕方などを話し合いながら実施に至る様にしていきたい。